
まっ赤ずきん

涙目のアリス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

まつ赤ずきん

【Nコード】

N4484K

【作者名】

涙目のアリス

【あらすじ】

友情、努力、勝利……3拍子揃ったまつ赤ずきんの冒険が今始まる

g o t o おばあさんの家

昔昔あるところに、まっ赤なずきんを被ったまっ赤ずきんと呼ばれている女の子がおりましたとさ

「まっ赤ずきん、おばあさんのお見舞いに行つてきなさい」

「ええ、わかつたわ。お母さま。」

まっ赤なずきんを被った女の子は元気よく答えた

「おばあさんはもう先が長くないですからね。今では寝たきり生活とか」

「おばあさまは森の中の一軒家に一人で住んでるのよね？足腰立たないのにどうやって暮らしてるのかしら？買い物とか」

「ばか子のくせに……………」

「??.?」

「子供は変な勘繰りしないで素直にお見舞いに行きなさい」

「はい」

「夜になったら狼が出ますからね、寄り道しちゃ駄目よ」

「はい。行つてきます」

まつ赤ずきは家をあとにした

「ふっふっふーん」

鼻歌をうたいながら森の中を歩くまつ赤ずきん

ガサガサ

狼が現れた！！

「お嬢ちゃんお嬢ちゃん。この近くに素晴らしい景色が見える丘があるんだけど、行かないかい？」

狼はまっ赤ずきんをそう言って誘った

「見たいなあ、でも寄り道しちゃいけないの。また今度ね」

「急いでるのかい？どこか行くのかい？」

「森の中の一軒家に住んでるおばあさまのところにお見舞いに行くの」

「そうかい。そいつは急がないといけないな。でもお見舞いなら花がいるだろう」

「そうね」

「あつちに500メートルほど進むとお花畑がある。そこでお見舞いの花を摘むといい」

「そうね、そうするわ。ありがとう狼さん」

まっ赤ずきんは礼を言うと、狼の指差した方向に歩いていった

「まっ赤ずきんは言ったか。さて、ばあさんの家に先回りしますかね。」

狼は不敵に笑うと颯爽とかけていった。

まっ 赤ずきんと桃太郎

「お花畑に着いたわ。早速おばあさまへのお見舞いのお花を摘まなくちゃ。」

ガサガサ

桃太郎が現れた！！

「そのオナゴよ」

「わ、びっくりしたー。私の事？」

「そうだ。拙者は桃太郎でござる。吉備団子やるから共に鬼退治に参らんか？」

「吉備団子一つで鬼と戦うの？流石に割にあわないんじゃないかな？」

「ところがどっこい、この吉備団子はそこの吉備団子と違う。おじいさんとおばあさんがありったけの呪術を使い、呪いをかけた吉備団子じゃ。」

誇らしげに語る桃太郎

「呪術？」

「これを食べたら主のために命を投げ出しても尽くしたくなる。」

「それは凄いね！」

「うむ。そうであろう。そうであろう。お主にも一つやるゆえに効能を試すとよいぞ。」

桃太郎は去った！！

吉備団子をてにいれた！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4484k/>

まっ赤ずきん

2010年10月8日15時17分発行